

手柄山温室植物園だより

シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

26. ホトケノザ（シソ科オドリコソウ属）

Lamium amplexicaule L.

2015年3月

田んぼや畦畔、畑、道ばたに普通に見られる越年草または一年草です。茎は軟らかく断面が四角で、基部で分枝し、高さ10～30 cmで直立します。葉は対生し鋸歯があり、下部にある葉は1～2 cmの柄があり、茎上部につく葉は柄がなく、扇状円形で長さ幅とも1～2.5 cmです。花は3～6月に上部の葉の葉腋につけ、長さ2 cmほどの紅色筒状唇形花を密に数個つけますが、閉鎖化も多く花冠が伸びないので、毛のある5裂のがくが目立ちます。種子にはエライオソームがあり、アリを誘引して種子散布を行う典型的なアリ散布植物といわれています。分布は本州、四国、九州、沖縄、台湾、朝鮮、中国、アジアやヨーロッパ、北部アフリカで、北アメリカに帰化しています。姫路市においても田んぼや畑、道ばたによく見られます。春の七草にある「ホトケノザ」はキク科のコオニタビラコのことです。本種は食用に適しません。



ホトケノザの群生状況



解放花と閉鎖花